

1. スタッフ（2023年4月1日現在）

2. 診療科の特徴

- ・認定施設

・認定医

日本内分泌学会内分泌代謝科（内科）指導医	海老原 健
	永島 秀一
	倉科 智行
日本動脈硬化学会専門医	矢作 直也
	岡崎 啓明
日本動脈硬化学会指導医	矢作 直也
	岡崎 啓明
日本肥満学会専門医	海老原 健
日本肥満学会指導医	海老原 健
社会医学系専門医	近藤 泰之
日本臨床栄養学会 認定臨床栄養指導医	矢作 直也

3. 診療実績・クリニカルインディケーター

1) 新来患者数・再来患者数・紹介割合

2) 入院患者数 (病名別)

1. 入院延患者数	517
2. 複数回入院を除いた入院患者数	493
3. 複数回入院の内訳	24
1) 糖尿病患者の血糖及び合併症管理	
2) 内分泌疾患患者の合併症管理	
3) 内分泌疾患検査	

病名	患者数
1. 糖尿病	285
1) 1型糖尿病	29
a. 急性発症1型糖尿病	9
b. 緩徐進行1型糖尿病	14
c. 劇症1型糖尿病	
2) 2型糖尿病	215
3) その他の特定の機序、疾患による糖尿病	
a. MODY疑い	2
b. ミトコンドリア	2
c. 膵外分泌疾患	
d. 肝疾患	
e. 薬剤（グルココルチコイド）	12
f. 内分泌性	
4) a. 妊娠糖尿病	2
b. 妊娠中の明らかな糖尿病	3
2. 主な糖尿病合併症	
1) 糖尿病ケトアシドーシス/高血糖高浸透圧症候群/糖尿病ケトosis	30
2) 低血糖	15
3) 感染症（足壊疽は含まず）	5
4) 糖尿病腎症によるネフローゼ症候群	2
5) 糖尿病腎症による慢性腎不全	5
6) 虚血性心疾患	
7) 脳血管障害	
8) 閉塞性動脈硬化症	
9) 足壊疽	1
10) 悪性腫瘍	3
11) 慢性肝疾患	107
脂肪肝以外の慢性肝疾患	16
12) 精神疾患	9
3. 視床下部・下垂体疾患	49
1) 非機能性下垂体線種	2
2) 下垂体前葉機能亢進症	4
a. 先端巨大症	1
b. Cushing病	2
c. プロラクチノーマ	1
d. TSH産生腫瘍	0
3) 下垂体前葉機能低下症	21
a. 下垂体腺腫術後	5
b. 下垂体腺腫	5
c. 下垂体低形成	0
d. Rathke嚢胞	4
e. Empty sella	2
f. Sheehan症候群	2
g. 免疫チェックポイント阻害薬による下垂体機能低下症	3
h. その他	
4) 下垂体ホルモン単独欠損症	
a. ACTH単独欠損症	2
5) 下垂体後葉疾患と類縁疾患	
a. 尿崩症	4
特発性	
下垂体腺腫術後	2

下垂体線種	2
ランゲルハンス細胞組織球症	1
Rathke嚢胞	
b. SIADH	2
c. 類縁疾患	
鉍質コルチコイド反応性低Na血症	
4. 甲状腺疾患	
1) Basedow病	40
a. 甲状腺クリーゼ	3
b. メルカゾールによる顆粒球減少症	1
c. 低カリウム性周期性四肢麻痺	1
2) 慢性甲状腺炎	2
a. 粘液水腫	2
3) 無痛性甲状腺炎	
4) 亜急性甲状腺炎	
5) 甲状腺乳頭癌	
6) 薬剤による甲状腺中毒症	
7) 甲状腺ホルモン不応症	
5. 副甲状腺疾患及び関連疾患	
1) 原発性副甲状腺機能亢進症	1
2) 原発性副甲状腺機能低下症	
3) 偽性副甲状腺機能低下症	
4) 骨軟化症	
a. ビタミンD欠乏による	
b. 腫瘍性骨軟化症	1
5) 液性悪性腫瘍性高カルシウム血症	
6) 続発性副甲状腺機能低下症	
6. 副腎及び関連疾患	57
1) 非機能性腫瘍	
2) 原発性アルドステロン症	41
3) Cushing症候群	6
4) Subclinical Cushing症候群	12
5) 原発性アルドステロン症とSubclinical Cushing症候群の合併例	8
6) 褐色細胞腫	2
7) パラガングリオーマ	
8) 副腎皮質癌（Cushing症候群合併）	
9) 悪性腫瘍転移	
10) 副腎疾患が除外された高血圧症（主に低レニン性本態性高血圧症）	
11) 続発性副腎皮質機能低下症（薬剤による）	
7. 膵内分泌疾患	3
1) インスリノーマ	3
2) 膵神経内分泌腫瘍	
8. 代謝疾患（糖尿病を除く）	
1) 高度肥満（BMI 35以上）	24
2) ダンピング症候群による反応性低血糖	1
9. 多発性内分泌腫瘍症（MEN）	1
1) 1型	
10. 自己免疫性多内分泌腺症候群	4
1) 3型	
11. 電解質異常	
低ナトリウム血症精査	8

3) 手術症例病名別件数

(内分泌疾患の診断後に外科的治療を受けた症例について記す)

病名	患者数
1. 視床下部・下垂体疾患	
1) 先端巨大症	1
2) Cushing病	2
3) 占拠性病変による下垂体機能低下症	0
2. 副甲状腺疾患	
1) 原発性副甲状腺機能亢進症	1
3. 副腎疾患	
1) 原発性アルドステロン症	2
2) Cushing症候群	1
3) Subclinical Cushing症候群	0
4) 原発性アルドステロン症とSubclinical Cushing症候群の合併例	0
5) 褐色細胞腫	2
6) パラガングリオーマ	
7) 副腎皮質癌 (Cushing症候群合併)	0
8) 悪性腫瘍転移による副腎腫瘍	0
9) 副腎悪性リンパ腫	0
4. 膵内分泌疾患	
1) インスリノーマ	2

4) 治療成績

5) 合併症例

6) 死亡症例・死因・剖検数・剖検率

死亡症例数 0

剖検数 0

7) 主な検査・処置・治療件数

病名 (延べ件数であるため、複数回入院による重複も含まれる)	患者数
1. 糖尿病	
1) 糖尿病ケトアシドーシス/高血糖高浸透圧症候群/糖尿病ケトosisに対する治療	31
2) 糖尿病治療薬による低血糖に対する治療	10
3) 外科手術前の糖尿病治療	150
4) 持続皮下インスリン注入療法の導入・管理	3
2. 視床下部・下垂体疾患	
1) 視床下部・下垂体機能検査	70
3) 続発性副腎皮質機能低下による急性副腎不全に対する治療	2
3. 甲状腺疾患	
1) 甲状腺クリーゼに対する治療	3
2) 131I内用 (アイソトープ) 治療	26
3) Basedow病眼症によるステロイドパルス治療	0

4. 副甲状腺疾患	
1) 高カルシウム血症性クリーゼに対する治療	1
5. 副腎疾患	
1) 副腎皮質・髄質機能検査	37
2) 副腎静脈サンプリング検査	20

8) カンファレンス症例

(1) 診療科内

7月20日 ミトコンドリア病

11月2日 原発性アルドステロン病

11月29日 Cushing症候群

(2) 他科との合同

内科レジデントカンファランス

11月10日 食欲不振と体重減

11月24日 発熱、下肢痛

糖尿病センター合同カンファランス

1月26日 Covid-19と糖尿病

5月11日 糖尿病性足病変

9月14日 糖尿病と精神疾患

9) キャンサーボード

[グループ名] 内分泌代謝科

【実績】 1年 0回

4. 2023年の目標・事業計画等

- 1) 内分泌代謝疾患の診療は多くの診療科の協力なしには推進し得ない。例えば糖尿病性網膜症は眼科、糖尿病性腎症は腎臓内科、虚血性心疾患は循環器内科、足壊疽は整形外科・皮膚科、甲状腺・副甲状腺疾患は耳鼻咽喉科、副腎疾患は消化器外科・泌尿器科、下垂体疾患は脳外科等である。引き続きこれら診療科との連絡を密にとってよりよい診療体制を築いていきたい。2009年度からは糖尿病センターが発足した。2022年は合同カンファランスを計3回開催し、引き続き当該疾患へのチーム医療を充実させていきたい。
- 2) 診療面では、新たな薬物の登場等に伴う治療法の進歩はみられるが、疾患の治癒をもたらすような画期的な先進治療に乏しいのが当該領域における医療の現状であり、問題点でもある。移植医療、再生医療、遺伝子治療等の臨床応用の機が熟したならば、積極的に新規治療の開発と導入とに取り組んでいきたい。
- 3) 糖尿病の蔓延防止とその合併症予防対策は昨今の医療行政の大きな柱のひとつとなっている。「糖尿病対策推進協議会」が設置され、この方面への貢献が期待されている。